

記録

フィルム
カラー／34分
日・英・仏・独・伊・
葡・西・中・アラビア・
タイ・インドネシア・
ハンガリー（マジャル）
語版

- 企画・監修
日本芸術文化振興会
国立劇場
- 出演
人形浄瑠璃文楽座
- 協力
（財）文楽協会

スタッフ

- 製作
村山和雄
- 脚本
原村政樹
村山正実
- 演出
村山正実
- 撮影
西山東男
山屋恵司
木村光男
- 照明
本橋俊男
工藤 晃
- 録音
堀内戦治
- 編集
吉田栄子
- ネガ編集
加納宗子
- 選曲
山崎 宏
- 解説
和田 篤
- 主な出演者
竹本住大夫（義太夫
節／人間国宝）
吉田玉男（人形遣い
／人間国宝）
吉田簀助（人形遣い
／人間国宝）
野沢錦弥（現・野沢
錦糸）（三味線） 他

文部省特選 文化庁優秀映画作品賞 1998年教育映像祭優秀作品賞
毎日映画コンクール記録文化映画賞 1998年キネマ旬報文化映画ベ
スト・テン第3位
日本映画ペンクラブノンシアトリカル部門第3位

「文楽」の歴史、特色、魅力を平易に解説しながら、人間国宝（重
要無形文化財保持者）の竹本住大夫、吉田玉男、吉田簀助らによる
「俊寛（しゅんかん）」で知られる『平家女護島（へいけによごがし
ま）』と『曾根崎心中（そねざきしんじゅう）』を鑑賞する。



文楽は、かつて「操り浄瑠璃芝居」または「人形浄瑠璃」と呼ばれ、
義太夫節を語る大夫の語りと、三味線、人形の3者が一体となり、
人間の感情や心理を描く、日本独特の舞台芸術である。

人形浄瑠璃が誕生したのは、16世紀の終わり頃。最も人気を集め
たのは、「義太夫節」で、その創始者は竹本義太夫である。近松門
左衛門は義太夫のために多くの浄瑠璃を書き、元禄16年（1703年）
に世話物の『曾根崎心中』を竹本座で上演した。これは実際の心中
事件を元にした作品で、元禄時代の大坂の町人世界を描いた現代劇
の先駆けである。

義太夫節を語る太夫の語りは、単なる描写や説明ではなく、登場
人物の心を表現し、人情の機微を語り表す。三味線は太夫と協力し、
太棹三味線の深い音色で心の模様や情景などを表現する。

文楽の舞台を支えるのは、人形の首（かしら）を作り修理する人
形細工師、髪を結び上げる床山（とこやま）、衣裳方などの裏方た
ちだ。衣裳方は出し物にあった衣裳を選ぶ。衣裳が出来上がると、
人形遣いが自ら人形の着付けを行う。これを人形拵（こしら）えと
呼んでいる。舞台は、『曾根崎心中』。手代の徳兵衛と遊女お初が死
出の旅へと向かう。